

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470500677
法人名	大信産業株式会社
事業所名	グループホーム みのり
訪問調査日	平成21年10月20日
評価確定日	平成21年12月20日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1470500677
法人名	大信産業株式会社
事業所名	グループホーム みのり
所在地 (電話番号)	神奈川県横浜市南区堀ノ内町 2-136-3 (電話) 045-712-1613

評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月20日	評価確定日	平成21年12月20日

【情報提供票より】(21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 3人, 非常勤 9 人, 常勤換算7.0人	

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨造り
	3階建ての1階～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	53,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(522,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,600円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤病院、五味洲歯科医院、田歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地下鉄蒔田駅から徒歩7分、大通りから少し入った、商店と住宅が混在した密集地にあるが、窓から柿木が見えたりする静かな環境にある。
良質の食材にこだわり産地まで買出しに出かけ、水は丹沢まで汲みに行き、おいしい食事を提供している。利用者を元気にさせたいと全員で散歩に出かけたり、ボーリング大会を行ったり、音楽療法を取入れた歌唱、職員手作りのゲームなどの楽しさを提供している。
開所から7年、管理者と職員がほとんど代わらず、当時からの利用者が半分おり、長く一緒に生活をする中で連帯感が生まれ、仲良くいたわりあう様子が伺われる。専門学校の実習生のほか、福祉専攻の若い大学生が夜勤職員として働いているので若さがある。夜勤者とは別にホーム長が同じ建物に住んでいることも安心感を与えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった運営推進会議を5月に開催した。ホームの現況報告をし、地域の情報などについて参加者の意見交換が行われた。災害対策としては、散歩時に玄関の外に集合すること、非常階段を下りて集合することを避難の練習の一部として日常的に行っている。避難訓練は消防署と相談して年2回行うことを決め、第1回を11月に予定している。栄養の摂取については看護師の指導を受けた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者と計画作成担当者を中心に、職員が前年度の評価を確認し、話し合っって作成し、管理者がまとめて完成した。気づきがあり、毎日のケアを見直すことが出来た。外部評価については結果を見て話し合い、改善する意向である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成21年5月に運営推進会議を地域包括支援センター担当者、民生委員、町内会長、利用者代表者、家族代表の参加を得て開催した。ホームの現況を報告し、町内会行事への参加、防災訓練などについて意見交換を行った。 町内会役員の来所時に意見を聞いたり、地域包括支援センター担当者との連絡が取れていたことから継続して開催してこなかったが、今回見直し、今年11月に2回目を行う予定である
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	全利用者および家族には契約時に重要事項説明書に明示して、意見や苦情の相談窓口を知らせている。家族の来訪時に意見を聞くようにしている。意見や相談があれば管理者、職員が話し合っって対処する。これまでに苦情例はない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所の代表者が町内会長を務め、知名度も高く、地域の人たちが事業所を好意的に見てくれている。天気の良い日には全員で散歩に出かけ、地域の人たちに声を掛けたり、かけられたりしている。利用者が来るのを待っていてくれる人や体調を気遣ってくれる人たちもいる。町内会の盆踊りや清掃にも参加し、今では町内会の一員として暮らしている。 吹奏楽や踊りのボランティアが来てくれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時より法人の理念をもとに事業所の運営方針の「入居者の残存能力を最大限に活かす、家庭的で暖かい雰囲気作りに努め、入居者個人に合わせたリズムで生活の質を高め、尊厳のある生活が送れるよう援助する」を理念として日々のサービスを行っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各階エレベーター横の壁面に掲示している。職員は入職時に理念の説明を受けている。引継ぎミーティングや月1回の全体会議の折、理念について確認し合い、実現に努力している。利用者の残存能力を活かすこと、暖かい雰囲気作りなど、利用者の笑顔がある生活になるようケアに活かしている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	堀の内町内会に加入している。また事業所の代表がその会長を務めているので、常時、町内会の情報が得られ、盆踊りや清掃などに参加している。毎日の散歩時には挨拶を交わしている。お菓子を用意して待っていてくれる子供や、利用者の体調を心配してくれる人がいる。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者と計画作成担当者を中心に、職員が前年度の評価、課題を見ながら話し合い作成し、管理者がまとめて完成させた。気づきがあり、毎日のケアを見直すことが出来たと感じている。外部評価については結果を見て話し合い、改善する意向である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の課題に挙げられていた運営推進会議を家族代表、利用者代表、地域包括支援センター担当者、民生委員、町内会長、事業所管理者、ケアマネジャー、職員により今年5月に1回開催することが出来た。町内会役員や地域包括支援センターの職員から、意見を聞く機会があったため改めて開催してこなかったが、見直しをし、次回は11月に行う予定である。		継続的に運営推進会議を開くことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から認知症理解講座開催を受託し、事業所職員が講師となって地域の人たちに認知症の話をした。市グループホーム連絡会主催の交換研修に職員が参加し、ケアの質向上に役立っている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月の請求書と出納帳に記載した医療費などのコピーと一緒に、日頃の生活の様子を書いた手紙や写真を送っている。家族それぞれの事情があり来所は少なくなっている。来所の際には、利用者の様子を伝えている。訪れた家族はホームのお客様として歓迎されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、家族に説明している。 家族会はあるが、現在、出席できない人が多いため開催していない。そのため花見、敬老会、クリスマス会など家族が来所する機会に意見や要望を聞くようにしている。苦情例はない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来、常勤職員が1名退職したのみで、管理者、職員の異動がなく職員間の連携がよい。各職員が全利用者の状態を把握してケアを行っている。夜勤の福祉学科の大学生が卒業し、新しい大学生を採用した場合には、ベテラン職員が2回一緒に夜勤をし、慣れるまで日勤職員が補助している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を回覧し、希望者には、ふさわしい研修を管理者が勧め、受講をさせている。研修参加は出勤扱いにし費用は事業所が負担している。受講者は報告書を作成し、ミーティングで報告して知識を共有している。転倒防止セミナーを始め多くの研修に参加している。年間を通しての研修計画はない。		職員の継続的なレベル向上のために、年間研修計画を立てて研修を進めることを期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に加入し、交換研修に参加している。ブロック毎では3ヶ月に1回勉強会を実施している。南区の4つのグループホーム及び系列のグループホームで交流し情報交換をし、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居を希望する本人と家族に見学してもらい、利用者と一緒に昼食を取り、レクリエーションに参加して、ホームの雰囲気を知ってもらい、職員がゆっくり聞いて不安を取り除いた上で入居となっている。おいしい食事と音楽療法などの楽しい生活を提供し、利用者同士がお互いにいたわり合い、助け合う雰囲気作りに努め、馴染んでいけるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者には習字の上手な人、漢字や昔の歌をよく知る人などがおり、利用者も職員も教わっている。季節の行事や飾付けなどについて、その地方のやり方を教えてもらうこともある。利用者と職員との間で、「ありがとう」、「すみません」などの言葉が行き交っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントを見直し生活歴を参考にし、さらに日常生活の関わりの中で、なにげない言葉や態度から利用者の思いや希望、意向を汲み取るように心がけている。意向の把握が困難な人については日々の行動や表情、仕草から推測するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は職員全員の意見を聞き、利用者、家族の希望を入れ、医師の意見も参考に作成している。本人の思いや意向を家族に伝え、理念に基づいたその人らしい生活を支える介護が出来るような計画にしている。本人の「歩きたい」という希望があったので、介護計画に組み込み支援し、車椅子から降りて自立歩行に戻った利用者がある。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の心身の状況を毎月モニタリングで把握して、介護計画は必要に応じ見直しを行っている。通常は6ヶ月ごとに見直しをする。変化があればその都度、本人、家族、職員等と話し合い、現状に即した計画を作成し直している。医師の意見は通院記録や支援経過記録などを参考に介護計画に反映させている。利用者本人や家族が確認している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問理美容を2ヶ月毎に利用している。保険適用の訪問マッサージを週3回、受け入れている。家族の都合のつかない時には、通院や洋服の買物、貯金をおろしに行くなどの外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の同意のもとに全員が協力医をかかりつけ医として、常に事業所と協力医が連絡を取り合い、協力医から指示を受けている。他に歯科、皮膚科、脳神経外科を受診している。受診記録は通院記録に記入し医療情報を共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針として、家族が希望する場合には、医師の合意を得て、職員と話し合いにより実施するとしている。現在、1名が家族の希望でターミナルケアを受けている。		重度化や終末期に向けた方針を文書で明文化することが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時には言葉かけに注意し、本人が恥ずかしくないように気をつけている。居室には職員はロックをして、声かけしてから入っている。申し送り時には個人名が分からないように話し、介護計画・記録等は本人が見ても傷つかないような書き方をしている。個人情報を含む書類等は鍵のかかるキャビネットに収納している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールで食事の時間をおおよそ決めてはいるが、それ以外は自由に行っている。朝寝坊する人もいれば夜間11時頃までテレビを見ている人もいる。散歩やゲームなども無理強いせず、その人らしい生活のリズムを大切にして支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム長が食の大切さを重視し、食材や水にこだわり直接産地に買出しに行き、水は箱根、丹沢まで汲みに行くことを続けている。調理は専門のキッチンスタッフがあり、利用者もやしのひげ取りや、えんどうのすじ取りを手伝っている。テーブルや、汚れたエプロンなどを拭くことも行っている。職員は楽しい話題を提供しながら、同じ食事を取っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に2～3回入る人が多い。なるべく希望の時間や順番を尊重している。長い人は50分位入る。入浴しない日は散歩の後に足浴をしている。ほとんど寝たきりの人でも2人介助で入浴している。ゆず湯や菖蒲湯も楽しむ。入りがらない人には言葉かけや誘導を工夫して入ってもらうようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯もの畳みや居室のモップがけ、食後の歯磨きをする時に歯磨き粉をつける係りなど、それぞれの利用者が役割を持っている。タオル体操やテーブル卓球、ボーリングゲームなど身体を動かすこと、ピアノ伴奏で音楽療法として歌を歌うことや職員の手作りのカードゲームなどをして、楽しい時間を過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近所の公園などへ散歩に出ることが、生活の一部となっている。車椅子の人も、公園の中では降りて歩行している。花見や初詣の帰りにはレストランでバイキングをしたり、お寿司を食べに行ったりして楽しんでいる。衣類の買物や郵便局へ貯金の引き出しに出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門が道路に接しており車の往来があって危険であること、セールスが多く無用心であることから、家族の同意を得て門扉を施錠している。外出時や帰宅時に利用者がチャイムを操作して、心理的な圧迫感を感じないようにしている。居室では、他の人が入るのを嫌い内部から施錠する人がいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎日の散歩時に安全に駐車場に集まることや人数の確認をすることをやっている。エレベーターを使わず非常階段を使い外に出ることも行っている。防災訓練を年2回、行うこととし、第1回を消防署と連携して地域の人にも知らせ今年11月に行う予定である。非常用食料や水などは倉庫に備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分の摂取量は記録し把握している。食の大切さを認識し食材や水にこだわり、献立に野菜を多く取り入れている。利用者の好みを聞きカロリーやバランスを考えたおいしい料理を心がけている。昨年度の改善課題であった栄養計算はしていないが、献立を協力医の看護師に確認してもらっている。		おいしい食事を提供することを心がけ、看護師の指導も受けているが、さらに栄養計算など専門的なチェックを受けることを期待する。
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3階建てのビルを改造して、1階と3階を居室、2階を食堂、リビング、和室、浴室などに行っている。食堂には食事や作業をするテーブル、リビングにはピアノが置いている。1階と3階のエレベーター前にテーブルやソファが置かれ、ゆっくり休憩できる。廊下には行事の写真や季節の飾り、利用者の作品などが飾られている。ホーム内は清潔に保たれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド、整理だんす、テレビ、鏡台、仏壇、照明器具など使い慣れた家具、カーテン、縫いぐるみや置物などの備品が持ち込まれている。壁にはカレンダーやぬり絵、家族の写真など馴染みのものが飾られ安心して過ごせる場所となっている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみのり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市南区堀ノ内町2丁目136番地3
記入者名 (管理者)	金子 美紗子
記入日	平成 21年 10月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・地域の住民として地域の輪に入り、一人ひとりのもてる力で地域住民としての役割を果たし、愛着の持てる場作りを目指している。</p>	<p>・天気が良ければ散歩に出ることを心がけ、地域の方と挨拶を交わし、地域住民の一人として生活していることを伝えている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・管理者と職員は、理念を共有し、理念の取り組みに向けホームの見学会、セミナーの実施、地域催しへの参加等積極的に行っている。</p>	<p>・新しい職員は入職時に理念について話し合っている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・家族には地域と関る大切さを理解していただき、参加行事等を案内し共に地域と関わってもらう。</p> <p>・地域の方々には、認知症を正しく理解していただくためにセミナーを開催したり、レクリエーションに参加してもらったり馴染みの関係を作るよう努めている。</p>	<p>・運営・推進会議などを通し、伝えている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・地域の人達が気軽に遊びに来たり立ち寄ってもらえるように取り組んでいる。</p> <p>・入居者の生活の広がりや安全のために、商店、警察、消防署、地域福祉施設等に理解を広げる働きかけをしている。</p> <p>・来訪を希望される方にはいつでも開放している。</p>	<p>・散歩の途中で出会う地域の方々と、気軽に声を掛け合うようにしている。</p> <p>・美容ボランティアや介護実習生等を受け入れ、利用者は出会いと行動範囲が広がっている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・事業代表者及びホーム長は地域の役員を引き受け、日頃より地域の人たちと関係を深めるよう努めている。</p>	<p>・町内会長、地区防災部長、老人会会計、区保健活動推進員を引き受けている。ゴミ集積所掃除の協力。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・入居者のケアに配慮しつつ認知症の理解講座、相談、家族やボランティアの見学、介護実習生の受け入れ等をおこなひ、地域に開放している。</p>		<p>・区の委託による認知症の理解講座の実施。</p> <p>・介護実習生、公共機関からの見学等を積極的に受け入れている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・サービスの質を評価することの重要性を職員に理解してもらい、評価結果をその後のサービスの向上に生かせるようにしている。</p>		<p>・評価結果を職員全員に確認してもらい、ミーティングのテーマにしている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・提供しているサービスの再確認ができ、地域の方とのつながりが一層深まった。</p>		<p>・運営推進会議を平成21年11月中に開催する予定。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・市町村事業などを積極的に受諾している。</p>		<p>・認知症に対する理解をテーマにした委託事業を受諾して地域の方に参加してもらい喜ばれた。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学び、利用者や家族に伝え、それらを活用できるように支援している。</p>		<p>・認知症の理解講座開催時、権利擁護事業、成年後見制度のパンフレットを参加者にわたした。</p> <p>・研修への参加。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・虐待とはどのような行為なのか、高齢者虐待防止法に記載されている項目を職員は確認している。</p>		<p>・高齢者虐待防止法で示されている行為と、具体的な例をいつでも見られるように、介護記録の整理キャビネットに入れてある。</p> <p>・研修への参加。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約を結んだり解約をする際は、十分に時間をかけて説明を行い理解と納得を図っている。</p> <p>・質問や疑問点がないか、こちらから細かく声をかけるようにしている。</p>	<p>・苦情・相談窓口があることを説明している。</p> <p>・ホームをより良くする為にも、意見や疑問点を気兼ねなく言ってもらいたい旨を伝えている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者には相談や苦情はいつでも言えるということを常に伝え、窓口には直接ホームの担当者か、第三者に伝えたい場合には公的窓口があることを文書と口頭で伝えている。</p> <p>・苦情が寄せられた時には速やかに対応し、改善に努めるように職員で検討する。</p>	<p>・重要事項説明書の説明時、相談苦情窓口の記載場所を確認していただいている。</p> <p>・利用者の方には不満や苦情を言っていただくことがホームを良くすることにつながるので気兼ねなく言ってもらいたい旨を伝えている。</p> <p>・日頃の関りの中で、利用者の意見を知るように努めている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的に家族に知らせている。</p> <p>・金銭管理を定期的に家族に報告するとともに家族からの開示要請にいつで答えられるようにしている。</p>	<p>・月に一度写真等を同封するなどして、近況を手紙にて知らせしている。</p> <p>・家族が訪問された時には写真やビデオを見てもらっている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族には相談や苦情はいつでも言えるということを常に伝え、窓口には直接ホームの担当者か、第三者に伝えたい場合には公的窓口があることを文書と口頭で伝えている。</p> <p>・苦情が寄せられた時には速やかに対応し、改善に努めるように職員で検討する。</p>	<p>・重要事項説明書の説明時、相談苦情窓口の記載場所を確認していただいている。</p> <p>・家族には意見や不満、苦情を言っていただくことがホームを良くすることにつながるため気兼ねなく言ってもらいたい旨を伝えている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・職員の採用、運営方法、入居者の受け入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。</p>	<p>・職員も一緒に考え意見を出せるように、運営の状況や情報を伝えている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・入居者や家族の状況の変化、要望に柔軟に対応できるように職員と話し合い勤務の調整を行っている。</p>	<p>・都度利用者に合わせたシフトを組むように努めている。</p> <p>・突然のシフトの変更でも互いにフォローしあえるように日頃から職員間で良好な人間関係を作るようにしている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・主体的に業務に関ってもらい、仕事に手ごたえを感じてもらおう。移動や離職の場合、本人から利用者にしきんと事情を説明している。</p>	<p>・結婚や出産の為退職した例はあるが、概ね安定している。</p> <p>・各職員は全ての利用者で満遍なく関わり状態を把握しているため、職員の離職による影響はない。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員が日常的に学ぶことを推進しており、職員それぞれの段階に応じて研修参加の機会を作っている。	・研修機関からのパンフレットを職員に回覧し、受講希望を表示している。 ・その人にふさわしいと思う研修には管理者から声をかけている。 ・参加者は研修資料や研修内容をまとめたものを作成、それをもとに報告勉強会を行っている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市のグループホーム連絡会に所属し、そこで実施されている交換実習に参加している。 ・同じく連絡会ではブロックごとに担当を決め3カ月に一回の割合で勉強会を行っている。	・積極的に交換実習に参加している。 ・各ホームの良いところは持ち帰り、ケアに活かしている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員間の親睦に力を入れている。 ・職員がくつろぎ休める時間や場所を作っている。	・ミーティング後の夕食会、季節のイベント、同世代の旅行など、気持ちを切り替えられる機械や何でも話せる雰囲気を作るようにしている。 ・朝はみそ汁を飲みながら、お昼は昼食後にコーヒータムを設けてゆったりできる時間を作っている。 ・休憩室は洋室和室あり、両方冷暖房の設備がある。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・管理者はケアの工夫や努力したことを見逃さず評価するようにしている。 ・それぞれの努力が他の人の刺激になるように、ケアの方法や工夫を職員間で話し伝え合っている。	・研修の情報は職員全員に回覧、希望する研修には参加できる。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談から利用に至るまでに本人の不安や困っていること、希望等を十分時間をかけて聞くようにしている。	・利用に至る前にホームでの昼食やレクリエーションの参加等「試し利用」を勧めている。 ・本人の不安や戸惑いを少しでも軽減できるように、話をゆっくり聞く機会を必要な回数作るようにしている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談から利用に至るまで家族が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞き、混乱が整理できるように支援している。 ・可能な選択肢を提示し、家族がよりよい方向を考えられるように支援している。	・利用に至る前にホームでの昼食やレクリエーションの参加等「試し利用」を勧めている。 ・家族の混乱や戸惑いを少しでも軽減できるように、認知症について説明するようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・可能な選択肢を提示し、自己決定できるように支援している。		・市町村のサービス、介護保険のサービス等公平な立場で説明するようにしている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ホームの雰囲気や、入居してからの生活が具体的にイメージできるようにしている。 ・家族にはグループホームに入居することをきちんと本人に説明してもらうようお願いしている。		・ホームでの昼食の参加やレクリエーションの参観など「試し利用」を勧めている。 ・家族には入居の判断によって罪悪感など持たないように、面会の自由、生活状況の報告、写真の提示などで安心できるようにサポートしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・生活の知恵や経験したことを生かし、職員も入居者に助けてもらったり教えてもらったりしている。		・季節の行事の意味や飾り付けを教えてもらう。(同じ行事でも地方によって様々なやり方があるなどの発見がある)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族にはホームを一つの家族とっていただけるように、他の入居者の方々と触れ合える機会を作っている。		・催し事は利用者と家族と一緒に過ごせるよう、機会を作っている。 ・家族の訪問が他の入居者も共に楽しめるように、皆さんとお茶や食事を一緒にしてもらう機会を作っている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・近況を定期的に手紙で知らせている。 ・面会の時には写真やビデオを見ていただき普段の様子を伝えている。 ・面会時には質問しやすいように必ず職員は声をかけている。		・家族との外出や、外泊がスムーズにいくように、外出前後の様子を伝えたり、家族の気がかりなことを伺い、ホームでの対応方法を伝えている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前に住んでいたところを尋ねる。 ・友人知人に手紙を書いたり連絡を取ったりできるように支援している。		・家族の訪問が他の入居者も共に楽しめるように、皆さんとお茶や食事を一緒にしてもらう機会を作っている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・掃除ができない人の部屋を掃除してくれる人、不穏になった人の話をじっくり聞き落ち着かせてくれる人、歩行が不安定な人に「だいじょぶか」といつも声をかけてくれる人、散歩のときに道路の安全を確認してくれる人、献立の記録を書いてくれる人、冗談を言って雰囲気や和ませてくれる人、皆さんの力に感謝し、職員はそれぞれの方が力を十分に発揮できるように支援している。		・入居者同士が支えあう力は職員とは違った力があり、その力が十分に発揮できるようなケアを職員は目指している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> ・退去理由を十分に説明する。 ・退去後の不安が軽減できるように、連絡機関やサービスの情報等を相談に応じて伝えている。 ・本人が安定して生活できるように必要な関係機関と情報の交換を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者家族には連絡を取り合い、いつでも情報提供や相談に応じられるよう伝えている。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握するために、日常の関わり中で自然に発せられる言葉を聞き逃さないようにしている。 ・希望や訴えは職員間で情報共有している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者が言った言葉そのままを、できるだけ介護記録に書くようにしている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に本人や家族関係者から、生活歴、生活習慣、一日の過ごし方等アセスメントを行うが、毎日の関わりからも一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を知るよう努めている。 ・職員間で情報共有している。 		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのペース、手順、こだわりを大切に、日々の暮らし方が安定しているか、変化がないか等常に把握するように努めている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月一回のモニタリングにより変化を知るようにしている。 ・本人の希望を最優先し、生活の質を高められるようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの思いや有する能力が発揮できるように、職員からは日ごとの様子、家族にはこれまでの暮らしぶりや担ってきた役割等を聞きながら、ケアのあり方を一緒に考え介護計画を作成している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本人の思いや意向を家族に伝え、本人の思いと家族の思いがつながるようにする。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回のモニタリングを行って身体の変化、状況の変化を知り、介護計画の見直しを行っている。 ・変化が生じた場合、本人や家族、職員等関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護計画や日々のケアに反映させるために、その日の様子や変化、気づき、ケアの工夫等を個別に記録し情報を共有できるようにしている。		・毎日各利用者に関する24時間を記録している。 ・情報を共有するため、わかりやすく色分けで記入している。 ・職員には、各自の記録を常にチェックするように伝えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・グループホームの特性(少人数)を活かし、本人家族の要望に柔軟に対応している。		・買い物等の外出を個別に支援している。 ・要望を柔軟に対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域の警察消防署と連携し、利用者が安全に生活できるように努めている。 ・地域の保育園児と一緒に散歩を楽しんでいる。		・地域の方と会うと挨拶をし、ふれあいを持つようになっている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・本人の意向や必要性に応じて、区や福祉保健センターのサービスを利用している。		・利用者に情報を提供している。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・退去時等、本人家族の意向や必要性に応じて地域包括支援センターとの協働もある。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族が希望する医療機関への受診に協力している。 ・ホームの協力医療機関を利用する場合は、本人や家族に説明し納得していただいた受診としている。		・不安なく安心して受診出来る様、職員が付き添い、帰宅後も充分説明している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・地域の脳外科クリニックにて認知症に関する診断や治療を受けている。 ・職員の相談にも応じてくれる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・医療的なことについては協力医療機関にすぐ相談している。		・カロリー計算の指導を受けている。 ・職員に出来る処置の対処の指導を受けている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・利用者が入院した場合、ホームでの生活感覚が途切れないように馴染みの職員が病室を訪ねている。また早期に退院できるように病院関係者と情報交換している。		・急変時や夜間の対応を確認し、できるだけ早く住みなれた部屋に戻れるよう医療機関と協力している。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化した場合や終末期のあり方、誰とどこでどのように過ごしたいかを本人や家族に尋ねている。 。普段の会話の中で表現されることもあるので、日常の会話を大切にしている。		・家族と相談しながら、ケアを行っている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・重度化や終末期の利用者が、日々苦痛なくその人らしく生活できるように、必要な関係機関と連携を図り、家族の協力も得ながら支えていく。		・事業所としてどこまで支えられるのかを職員と話し合い、家族に伝え、その中でできる限りの取り組みをしている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・本人が別な居所に移り住む際、家族及び本人と移り住むところの関係者と話し合い、必要な情報を提供し本人が不安なく生活できるように協働する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・居室で過ごしているとき、入浴、排泄時には特に本人の意思を尊重し、個性を大切にしている。 ・記録等の個人情報は鍵のかかるキャビネットに整理している。	・申し送り中など、個人名や内容を他の人に聞かれない様、職員同士の会話は細心の注意をしている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者が自己決定できるように、一人ひとりの理解力や能力に合わせて説明をしている。 ・本人が決定や気持ちを表現できることを大切にしている。	・急かさずゆっくり待つ。 ・利用者に合わせた声かけを行うようにしている。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの個性やこだわりを尊重し、生活のリズムやペースを守るようにしている。	・動きや表情などの観察から、言葉以外の情報を得るようにしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・職員は、毎日その人らしく身だしなみが整えられるように支援をしている。 ・ヘアスタイルや着る物を決めるときには、季節や外の様子を伝えるなどして、志向に広がりを持てるように支援している。	・職員は、装いや変化に気づき感想を伝える。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・職員も入居者と同じ物を一緒に食べながら、子供の頃の食べ物や食事風景、得意な料理、食材や季節など楽しい思い出を話せるように話題を提供し、皆さんが幸せな気持ちで食事できるように努めている。 ・一人ひとりのペースを大切に、食事時間はその時々雰囲気流動的に考えている。	・新鮮な食材を用いて、毎回手作りで出来立てを出している。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・おやつなど好みのもを一人ひとりの状況に合わせて楽しめるようにしている。 ・お茶の温度などそれぞれの好みに合わせて準備をしている。	・職員は一人ひとりの好みの情報を共有している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄の失敗やおむつの使用を減らすため、一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。		・日中の排泄は全員トイレを使用できるように支援している。 ・羞恥心プライバシーに配慮し、声をかける場所、タイミングに配慮している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・安全に配慮しつつ、一人ひとりの身体機能や能力に合わせて自立できるように支援している。 ・希望の時間や手順を尊重している。		・プライバシーに配慮して、脱衣から着衣まで他の人と重ならないように時間を考えている。 ・入浴できないときは足浴を行っている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・一人ひとりの生活習慣や体力、その時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるように支援している。 ・活動と休息のバランスを考えている。 ・不快な音や光の調節等環境を整備するようにしている。		・定期的リネンを交換し、常に清潔を保てるように行っている。 ・不眠の不安等、話を傾聴し安心してもらえるよう心掛けている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・一人ひとりの特技や能力を知り、出番や役割が見いだせるような場面作りを行っている。 ・皆さんと一緒に楽しめること、個々に楽しめることを、状況を見極めながら支援している。		・地域の催しに参加し、様々な人と触れ合う機会を作っている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 ・職員はお金を持つことの大切さを理解しているが、本人の不安、トラブルの原因を作る場合もあるので、本人の気持ちを尊重しながら適切な管理の支援をしている。		・買い物等一緒に出かける機会を増やすよう配慮している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・職員体制によって希望日に実現しない場合もあるが、できるだけ戸外に出かけられるように支援している。		・天気の良い日は散歩に出かけることを生活のリズムとして支援している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・花見やお祭り、運動会など、地域の催しの情報を伝え、希望するものに参加できるように支援している。 ・レストランやホテルのバイキング、おすし屋など、外食の機会を作っている。		・家族も声掛けし、参加出来やすいよう配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の能力に合わせて、家族や友人と通信できるように支援している。		・自分がしたい時にしていいんだという声かけを行っている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地良く過ごせるよう工夫している。	・家族や知人等が気軽に訪問でき、訪問時は居心地良く過ごせるように努めている。		・本人や訪問者の希望を最優先し、好きな場所で団らん出来る様にしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員の控室にポスターを掲示したり、身体拘束の項目を確認している。		・身体拘束を行った事例はないが、今後も一人ひとりの性格や行動パターンを見極め、不安や混乱に早めに対応するように努める。 ・研修への参加。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・門の外すぐに車の往来があり安全のために門扉には鍵をかけているが、一般の家庭と同じように外出時や帰宅時には利用者自身にチャイムを操作してもらい、心理的圧迫感を感じないように努めておる。 ・居室の施錠は本人の意思、職員が掛けることはない。		・外出制限ではなく防犯のために門扉玄関には鍵をかけていることを、入居者、家族に説明をし理解をもらっている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・3階建てなので、常に利用者が居る場所を職員間で伝え合って、本人が不快にならないよう安全確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・注意の必要な物品の保管場所や管理について職員一同共通認識を持ち、常に同一の場所にあるか、量や変化に気をつけている。		・申し送り帳で情報を確認、共有している。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ヒヤリハット報告用紙を用意し、小さなことでも報告、改善、結果検討の流れを作っている。 ・ヒヤリハットに気づける介護、報告できる介護に努めている。		・ヒヤリハットを書くことに抵抗を感じないように、失敗ではなく気づきと捉えるようにしている。 ・リスクマネジメント等研修への参加。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時対応マニュアルを作成し全職員で確認している。 ・入居者の緊急連絡先、医療機関の連絡先、緊急時職員連絡網を、すぐに取り出せるように整備している。		・職員は年1回救命法の講座出席を予定している。(すでに一部実施)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・職員は状況に応じた非難手順、避難経路、避難場所を確認している。 ・災害時対応マニュアルを作っている。		・利用者が不安にならないよう配慮し、年1回避難訓練を行う。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・入居時に身体状況、これまでに起きた事故、医療情報を伺い、家族と一緒に起こりうるリスクについて考え、その時の対応方法を確認すると共に、ホームでの努力目標についても説明している。		・身体状況に変化があった場合ご家族に報告し確認をしていただくように努めている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・一人ひとりの身体状況の変化や異常の早期発見のため、毎日のバイタルチェック、水分、食事の摂取量、排泄、睡眠、月2回の体重測定を記録し、変化がすぐに分かるように1枚の用紙にまとめている。		・緊急時対応や医学的要素を含む研修の参加を増やし、職員のスキルアップをしたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法用量について薬情報に目を通し承知している。 ・医師の指示通りに服薬できるように支援し、症状の変化を確認している。		・診察時の医師の指示や処方薬の変化等を通院記録に記録している。 ・個別に服薬チェック表を作り間違や飲み忘を防いでいる。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・職員は便秘の原因やその影響を理解し、予防のために飲食物の工夫や、運動への働きかけを行っている。 ・一人ひとりの排便リズムを把握し、適切な排便誘導に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・職員は口の中を良好に保つことが、食事をおいしく食べられ健康維持につながっていることを理解し、毎食後歯磨き、入れ歯の手入れができるように支援している。 ・毎食後の歯磨きが生活習慣になるようにし、口の中の汚れや臭いを予防している。		・食事ごとに歯ブラシとコップを準備し、歯磨きをした人と忘れた人を分かるようにしている。忘れた人には声をかけ、毎食後皆さんが口の中を清潔にできるように支援している。 ・必要な方にはガーゼにて口腔清拭を行い、唾液の分泌を良くするよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食材や調理法、季節感を大切にして、必要なカロリー、栄養のバランスが無理なく楽しく摂れるように工夫している。 ・1日の食事や水分の摂取量を記録し、必要量取れているかを判るようにしている。特に水分量には気をつけ、脱水症の予防に努めている。		・個々に食べやすい器を用意。 ・水分量も取れるよう、飲み物の種類も選べるよう支援している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症予防マニュアルを作成し、職員間で確認している。 ・利用者、職員共に手洗いうがいを実行している。		・研修への参加。 ・外出後は必ず手洗いうがいをを行い習慣付けている。 ・排泄介助後はアルコール消毒をしている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食中毒の予防のために、まな板や布巾の消毒記録を付けている。 ・野菜は直接産地に行き新鮮な物を購入している。肉や魚は、使う時に近くの専門店から購入し、できるだけ買い置き期間を少なくしている。		・調理に携わる職員は、食中毒や衛生管理の研修の機会には参加する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・利用者や家族、近隣の人たちに親しみやすいように、玄関の周りやベランダに季節の花を咲かせるなどして明るい雰囲気を作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間には季節の花を飾ったり、四季の行事に合わせた飾り物をするなどして皆さんが楽しめるようにしている。 ・3階建てでトイレも各階に分かれているので、一か所で待たされたりしないように、職員は空いているトイレへの誘導声かけを行い、快適に使用できるように心がけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・3階建ての各フロアごとに共用スペースを設けている、一人でテレビを観ていたり、入居者同士や職員と話したりと思いい思いに利用している。		・テレビ・ビデオが見やすいよう、新聞が読みやすいよう、椅子・テーブルの配置に気をつけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には本人や家族と相談し、今まで使い慣れた家具や日用品、装飾品などを置いて、できるだけ馴染みの空間に近づけ安心して過ごせるよう配慮している。		・人形、動物のぬいぐるみ等を置いて、好みの色を使うように配慮している。 ・季節の花を飾る。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・一人ひとりが気持ちよく過ごせるように、お天気ときには窓の開放している。 ・不快な臭いを防止するために、ごみや汚物を迅速に片付け換気を心がけている。 ・健康に配慮し、季節にあった温度湿度を設定している。特に夜間の室温には気をつけている。		・職員は申し送り帳を活用。 ・情報を共有し、気持ちよく過ごせるよう配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・一人ひとりの身体機能を考え、自立に必要な福祉用具の活用や手すりの設置を行っている。		・プライバシーが守れ、主体性のある生活が過ごせる様、要望を聞いている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・一人ひとりのわかる力を活かせるように、居室の表示は利用者の好きな色デザインで作ってもらう。 ・3階建てのためエレベーターを使っている。階を自由に行き来できるように、一人でもエレベーターの操作ができるように支援している。		・3階建ての為エレベーターを使っている。一人でも自由に階を行き来できるように操作の仕方を伝えている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・園芸が好きな方で、2階ベランダと玄関にプランタで草花を育てている。		・季節感や草花の成長を楽しめるよう、水撒き等できることを支援している。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

生活の中で食は大切なものとして捉え、日々の食材や水にこだわりを持っている。食材は産地まで直接買いに行き、美味しい水を沢山飲むように、箱根、丹沢まで汲みに行く。10時のおやつは腸の健康維持に良いヨーグルトをベースに季節の旬のフルーツ、手作りのジャムをのせ季節感を醸し出している。

晴れている日は毎日近くの公園へ散歩に出かけ地域の方とおしゃべりしたり、保育園児と遊んだりして、地域住民の一人としての生活を楽しめるよう支援している。また、雨天時にはボーリング・卓球・輪投げ等をして身体を動かし、みんなで大笑いしながら楽しんでいる。

入浴の他にも足浴をし、入浴と同じ効果を得ている。また、足浴をすることにより感染、身体の変化の早期発見に努めている。

自分で出来ることはできる限り自分で行うと共に、入居者がお互いに助け合う雰囲気を作り出すように努めている。